

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.11

今週のキーワード! ① バジパイ首相 中道のヒンドゥー至上主義者

インドは 1998 年からの約 6 年間、インド人民党(BJP)を第一党とする与党連合・国民民主同盟(NDA)が政権を運営しました。BJP 主導のこの連立政権に参加する党の数は 20 近くもありました。BJP がこの寄り合い所帯を維持できたのは、「党首であるバジパイ首相の比較的穏健な人柄によるところが大きかった」と武藤氏は語ります。

アタリ・ビハリー・バジパイは多民族・多宗教のインドにあってヒンドゥー至上主義を掲げる政治団体に支えられる BJP の党首として、自身も根っからのヒンドゥー至上主義者でありながら、首相になるやそうした主張は棚上げし、中道・世俗主義路線の現実的な施策を行いました。武藤氏は「外交には妥協が必要だ」と語りますが、ここには一国の首相としての妥協があったといえるでしょう。「そういう姿勢や人柄が『バジパイが首相ならいいだろう』という雰囲気をつくり、連立与党内に生んでいた」(武藤氏)といえます。

バジパイは 1924 年生まれの 85 歳。2009 年まで国会議員を務めましたが、現在は引退しています。家族は養女が 2 人いますが、生涯独身を貫いています。その背景には実らなかった恋があったとか。

今週のキーワード! ② ソニア・ガンディー 「ネルー・ガンディー家」の嫁として

インドの与党連合・統一進歩同盟(UPA)を率いる国民会議派の総裁であり、故ラジーブ・ガンディー首相の妻として知られるソニア・ガンディーは、『インド私録』にあるように、夫が政界に入ることには強く反対していました。政治家にはテロや暗殺の心配が付きまとうからです。

しかし、今はその当人が亡き姑と夫が総裁を務めた国民会議派の総裁となり、また与党連合の議長として顕然たる権力を振るっています。そこにはネルー、インディラ、ラジーブと続いた一族の権力を彼らの血を引く自身の長男、ラーフルへ継承しようという思惑が働いているというのが大方の見方です。

ソニア・ガンディーは 1946 年 12 月 9 日、イタリア北部の片田舎ルジアナに生まれました。18 歳のとき語学留学したケンブリッジで、ケンブリッジ大学トリニティー・カレッジに留学していたラジーブ・ガンディーと出会い、1968 年に結婚しました。以来、ソニアはサリーの着用やヒンディー語の習得など、夫の国に馴染む努力をし、ラジーブが国会議員に初当選した 1982 年の翌年にはインド国籍も取得しています。

ソニアが政界に入ったのは 1998 年です。当時野党だった党は国民

の崇敬を集めるネルー=ガンディー家の求心力を必要としたからです。この年総選挙でソニアは初当選を果たし、国民会議派総裁となりました。党が勝利した 2004 年の総選挙では党総裁に再選され、首相にも推薦されましたがそれを辞退し、首相にはマンモハン・シン氏を推挙しました。2009 年に行われた総選挙でもシン政権は多くの支持を集め、2 期目に入っています。

なお、長男ラーフル・ガンディーは 2004 年の下院選挙で出馬し、初当選しています。2 期目となる現在は党の幹事長を務めています。

朗読者ご紹介

彩演! 松尾比呂美さん

松尾さんは、(西田の)小・中学校時代の同級生です。勉強もスポーツも何でもできる才媛で美人である上、声がとてもきれいだったのを思い出し、もう十数年も会ってないのにお声かけしたのでした。目下 1 歳のお子さんの子育てで忙しい毎日。「転校生だった小学校時代はなまりで笑われるのでみんなの前で読むのは苦痛だったのよ」といいながら、お子さんの寝ている間に朗読していただいています。

第 13 回放送は
8 月 24 日です。

